

編集後記

今月は特集として「リハビリテーションと臨床心理」をおとどけする。名医という言葉はいまやなじみの薄いものになりつつあるが、むかし、名医といわれた方々は系統的な学問としてはいざしらず、実際の面で臨床心理に通暁しておられたことと思われる。医療の上で心理面の比重の極めて大きいことは周知のことであるが、リハビリテーション医療の上では、身障者が心理学の問題点を呈することがしばしばであるので、その比重は殊更に大きい。

本特集では先ず三沢義一氏が総論として心理学の評価について述べられたが、リハビリテーションの分野における心理学の評価は未だ問題が多く、今後の体系的な評価技法の開発の必要を指摘された。ついで上田敏氏が障害の受容について問題の掘下げを行っている。片麻痺の廃用上肢について何時その宣告を下すかに、常に悩まされている私共にとっては極めて関心の深い問題である。つづいて永井昌夫氏が障害者スポーツの心理的效果について、実施に関する方法や留意点を含めてまとめられた。十数年前ニューヨークで、「ラスクさんは患者にバスケットボールをさせて教授になった」というジョークをきいたことがあるが、しかし、初めて身障者にバスケットボールをさせたラスク教授の慧眼には今更

ながら心から敬意を払いたい。次には大橋正洋氏がリハビリテーションと行動療法について、アメリカでの経験を基にされて書かれた。行動療法とはいかにも難解なもののようなのであるが、内容は誰でもが行いうることであり、しばしば患者を好ましい方向へリードしていくことが可能となる。是非一読をおすすめしたい。最後に内須川洸氏が言語治療における心理学の役割について述べられた。現在、言語士の身分法の確立が急がれているが言語上の教育の中に占める心理学の比重の大きさを指摘されている。

研究と報告は今月号では計4篇に達した。今後も引き続きすぐれた研究成果の投稿を期待したい。

講座は脳卒中の7回目で、喜多村・中原両氏によるCTスキャンの第1回目である。最近は関係の学会に出席するとCTスキャンの花盛りで、CTスキャンのやってないデータは発表するのに気おくれがするほどであるが、この際CTを正しく理解していただくために、わが国でCTを最初に使い始められた第1人物の喜多村先生に解説をお願いした次第である。

いよいよこれから猛暑の季節に突入する。読者諸兄姉の御健康をお祈り申し上げます。
(横山 巖)

次号予告(第8巻第8号)

特 集	頸椎の異常とリハビリテーション	
	後縦靱帯骨化症の現状と治療……………東大・整形外科	津 山 直 一
卷 頭 言	頸椎と頸肩腕症候群……………日医大・理療科	石 田 肇
	Down 症候群患者にみられる	
研究と報告	頸椎の異常……………神奈川・子ども医療センター	井 澤 淑 郎・他
	頸椎疾患に対する観血的治療……………慶大・整形外科	平 林 洸
講 座	頸部の運動療法……………産業医大	緒 方 甫
	老齡化社会とリハビリテーション……………厚生団	大 村 潤四郎
一 頁 講 座	リウマチ膝拘縮に対する硬膜外麻酔下の運動療法の試み……………福井赤十字病院整形	上 尾 豊 二・他
	両側アメリア症例に対し肩甲骨の運動を利用せる能動義手開発の経験……………愛媛大・整形外科	首 藤 貴・他
ひ と	両下肢形成不全児のリハビリテーション……………慶大・リハセンター	本 田 哲 三・他
	精神遅滞における筋緊張低下と発達解離現象……………東大・リハ部	木 佐 俊 郎
講 座	脳卒中(8) 脳卒中とCTスキャン(2) 脳梗塞のCT……………東京女子医大・脳外科	喜多村孝一・他
	リハビリテーションと法律(8) 社会福祉事業……………厚生省社会局	小 林 迫 夫
ひ と	リウマチ患者としての心情を体験している冷静な社会心理学者 Pirkko Kiviniemi 先生……………東大・保健学科	佐々木 智 也

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江口 壽榮夫
荻 島 秀 男
小 野 啓 郎
加倉井 周一
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
斉 藤 正 也
沢 村 誠 志
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長谷川 恒雄
橋 倉 一 裕
福 井 閑 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
田 中 照 子
小 川 孟
野 村 歆
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
林 玉 子
土 屋 和 夫
松 村 秩

(細田, 山田)